

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立三島高等学校（ 2 ）

評価実施日 令和 4 年 2 月 16 日（水） ※ 書面開催

評 価 ・ 提 言 等

提言等に対する改善方策等

1 評価アンケートの最終評価について

- ・ 生徒から学校への評価も昨年以上に高く、家庭や地域からの信頼も、良い方向に進んでいる。
- ・ 保護者による学校評価が一部下がっているが、これはコロナ禍での影響が考えられる。
- ・ 休業措置の時でも、リモートで「学びを止めない教育」をされ、生徒・保護者も安心だと思う（複数）
- ・ 学習指導において家庭学習時間（予習・復習等）が目標に達するように頑張してほしい。
- ・ 宿題の量については、生徒・保護者が納得できる指導をお願いします。
- ・ コロナ禍により学校行事や特別活動に制限があったが、生徒が活躍できる教育を目指してほしい。
- ・ H P へ各種情報をよりタイムリーに U P していただくことが、生徒たちの活躍が地域に伝わると考えます。

2 自己評価表の最終結果について

- ・ 教員による自己評価集計から先生方の努力を感じます。保護者連携・地域社会との交流、開かれた学校など課題は多いですがより前向きな取り組みをお願いします。
- ・ 国公立大学への合格者数は頑張してほしい。（複数）
- ・ 心配なのは、時間外勤務が評価 E の先生方である。心身ともに健康な状態で生徒たちと接してもらうためにも教職員の時間外勤務を軽減してほしい。（複数）

3 次年度に向けての提言等

- ・ I C T 活用において、義務教育ではクロームブック、高等学校になってオフィス 3 6 5、I C T スキルギャップへの対応により指導者側のスキルも重要になる。
- ・ 登下校時の生徒たちを見ると、交通ルールやマナーを守ってほしいと思うことが以前よりも多い。
- ・ 生徒たちは、SNSを利用することで、利便性は向上しているが、コミュニケーション能力の低下が気になる。
- ・ 本校出身の真鍋淑郎様のノーベル物理学賞、今年の書道パフォーマンス甲子園第 3 位という結果に感動を頂きました。今後も第二、第三の真鍋氏を目指せるよう期待します。
- ・ 「生徒の人権」を考えた時に、「校則」の問題にぶつかります。校則の見直しの取り組みも必要だと思う。
- ・ 先生も生徒も多忙だと思うが、学校・保護者・地域が一体となった生徒育成に努めていただきたい。

- ・ 高評価の項目についても現状に満足することなく、さらなるレベルアップを目指していきたい。
- ・ コロナ禍の中、学校の魅力や特色を高める取組やオンライン授業の充実等の方策を考えていきたい。
- ・ 学習指導については、特に入学時早期に学習方法や学習の意義を説明し、高校の高度な学習に耐え得る学力と毎日の家庭学習の習慣を身に付けさせたい。
- ・ 課題の量について工夫し、生徒が家庭での予習や復習を効果的に行えるようにしていきたい。
- ・ 生徒が活躍できる学校行事や部活動にしたい。
- ・ 評価アンケート（保護者）にもあったように、生徒の活躍を迅速に発信できる事が、家庭・地域・学校の深いつながりになると考えます。

- ・ 目標達成のために今後とも努力したい。
- ・ 学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、社会全体で生徒の育成を支えていく取組をしていきたい。
- ・ 教員の業務が多様化し、業務量が増えてはいるが、I C T 活用等により、勤務の平等化や効率化を講じ、対応したい。

- ・ コロナ禍で臨時休校などを経験し、I C T 機器の活用が必須となった。校内研修等を通して、指導者のスキル向上に努めたい。
- ・ 引き続き機会を捉えて生徒たちに呼びかけ、自転車通学生などのマナーの向上を図りたい。
- ・ 学校アンケートはもとより、日々の生活への目配りや気配りを欠かさず、サインを逃さないように注意する。
- ・ 生徒の可能性を少しでも伸ばせるよう、指導者側も連携を密にし、協力体制を整えたい。
- ・ 校則内容を説明し、生徒と保護者の共通理解を目指すとともに、必要に応じての見直しも図りたい。
- ・ 時間が許す限り地域との関わりも深め、ボランティア活動や地域の活動への参加を深め、生き方・考え方等の啓発・協力体制を図りたい。